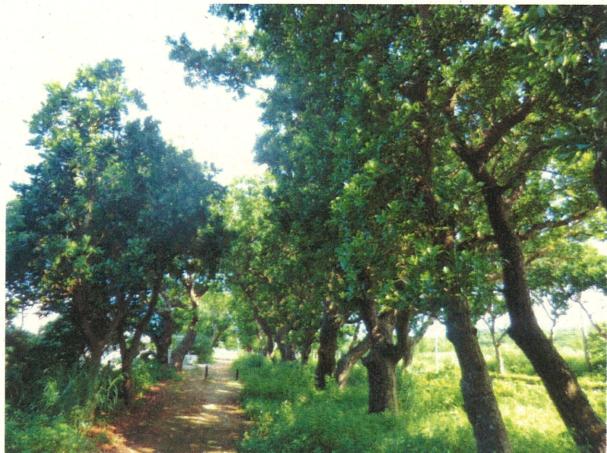


## ●海外に対する林木育種技術協力

### [テリハボクの耐風性育種]

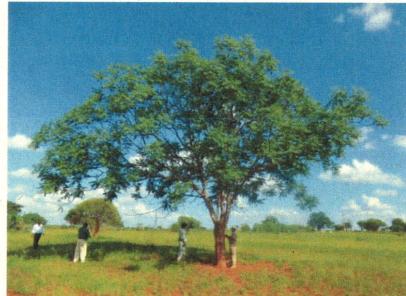
地球温暖化の進行に伴い、温暖化適応策に資する品種開発の一環として亜熱帯地域の海岸防風林樹種であるテリハボク(*Calophyllum inophyllum*)について、耐風性・耐塩性(耐潮性)に優れた品種開発に向けて、トンガ、バヌアツの試料を収集するとともに、検定林造成のため国内で収集した種子をフィジーへ送付するなど太平洋共同体事務局との国際共同研究を実施しました。また、国内産テリハボク検定林では、テリハボ・Nの成長形質は遺伝的な影響を受けていることを明らかにしました。さらに、台湾、先島諸島、小笠原諸島の各島のテリハボクについて遺伝変異の解析を実施しました。



石垣島(沖縄県)で防風林として植栽されている  
テリハボク

### [ケニア森林研究所(KEFRI)との共同研究]

ケニアでは、半乾燥地及び乾燥地が国土の約8割を占めており、地球温暖化が進行する中にあって、乾燥に強く、生産性の高い郷土樹種による森林づくりが課題となっていることから、ケニア森林研究所(KEFRI)と共同でケニアの郷土樹種メリア(*Melia volkensii*)の乾燥耐性優良候補木の選抜及びそれらの遺伝変異の解析を実施するとともに採種園や検定林の造成に着手しました。



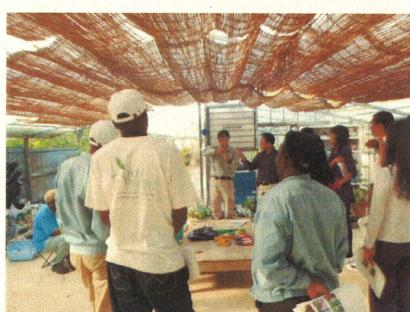
メリア  
天然木



専門家による増殖技術  
(つぎ木)の指導



日本での研修  
(DNA分析)



海外研修員への  
技術指導

### [研修員の受け入れ]

国際協力機構(JICA)を通じ技術協力をを行っているケニア共和国「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」のケニア側研究者等8名を含め、海外22ヶ国の57名及び国内6名を受入れ、研修目的、研修員のニーズに応じたプログラムにより技術指導を行いました。